

## ●新企画シリーズ「世界の夜の渡り」●

### 第一回 ラテンアメリカ編 .....谷保 茂樹 会員

1979年、私にとってメキシコの夜といえば、フィエスタ（祭り・パーティ）。招待される者はただ酒、ただ飯、ただコンパ会場で貧乏学生にとってアルバイトにも勝る滋養供給源である。日本人学生会（貧乏互助会）を組織し日系三世会（金持ち息子会）と一緒に資金集めダンスパーティを企画したら三世会の女性に色目を使ったとボコボコにされ（日系人結束固し）、ニカラグア学生革命運動が吹き荒れる大学構内を歩くと図書館地下に連れ込まれ応援アジに罵倒・軟禁される怖い夜もあった。

1985年、ポリヴィアの夜はペーニャ（歌酒場）でフォルクローレ（民族音楽）が定番であるが、最近のフォルクローレは市民運動歌より恋愛歌に成り下がったと知ったような口をきき、夜間戒厳令下の夜をさらにはしごしたら、店の前に横付けの重戦車に仰天した。穴場は、コカイン売買で有名はバーガーショップ近くの自称5つ星ホテルの屋上ディスコで、標高4千メートルの屋上では満点の星空が真横に見えた。調子に乗れば翌朝から高山病で仕事にならぬ者多発。

1991年、民主化されたばかりのニカラグアの夜は、地震と内戦の傷跡まだ深く、暗い盛り場の街頭に立つ客引きはオカマばかり、聞けば激戦地の野営でオカマになったと言う、ラテンマッコを思えば内戦後遺症恐し。

1993年、カリブ海に浮かぶドミニカ（共）の夜は、一日平均10時間の停電という電力事情の中、自家発電機の轟音まき散らすどのホテルにもきらびやかなカジノが併設され、二次会はどこかのカジノに落ち着く。しょぼいブラックジャックが我々の定番で、中にはこの柱の一本は自分が建てたと豪語する某専門家も居るが、本当のでっかいマネーロンダリングは奥の間です（残念）。

2000年、再びニカラグア、あれから10年、自転車通勤の職員もいた民家使用の某国大使館も堅牢な要塞大使館へ、ドナー蠢く町へと変わりました。家庭内暴力問題はラテンマッコだけを見ず、野郎の野営転戦にロマンが残り家の枠にはまれないかわいそうな野郎の病気であるという持論、誰にも相手にされず。

## ●新企画シリーズ「海外で危うく死にかけた！」●

### 第一回 盲腸炎で腹膜炎を併発！ .....山崎 清人 会員

JBIC融資ソロ河改修事業の国際入札評価を行う為、インドネシア ジャワ島ババット市に到着したのは2000年5月23日で55歳の時。到着直後より背中が痛く夜間に眠れない。風呂で暖めたり、正露丸を飲んだりしたが4日間変化無し。業務の契約期間は短期3週間で焦った。宿舎備え付けの医学辞典を見た。盲腸炎の症状とそっくり。5日目午前スラバヤのインターナショナル病院で診断、結果はまさしく盲腸炎で“動くな”と命じられ、午後手術をやる、40分程度で終わる、と告げられる（単なる盲腸炎との診断）。少し悩んだが東京大学で医学を学び既に100例以上の施術経験のある先生の執刀、病院の設備・清潔度などの聞き取り調査より、大丈夫だろうとの総合判断で当院での施術をOKした。

所長のS氏も駆けつけ、麻酔を行い午後5時頃手術開始、2時間ほど掛かった（後で知ったことだが）。腹膜炎を併発していた由（医者は、はっきりとは言わなかったが左程長くない前の破裂であろう）、麻酔が切れ猛烈な悪寒（水洗浄の為）と悪臭（腹膜破裂の特徴）が漂った事が記憶される。広い手術室で“ディンギン”（寒い、寒い）と叫んだ。

翌々日妻が日本から駆けつけた（海外旅行傷害保険適用）。手術時間が長引いた事などよりS所長が危ないと思い、急遽対応したのだと思う、が詳細は何っていない。アフリカなど医療技術未発達国であった場合、このようなケースではあの世であったと思う。途上国勤務では、以下くれぐれも注意したいものである。

1. 途上国では医学辞典が参照出来る環境を整備しておく事。
  2. 盲腸炎は若い時に施術しておく事が望ましい。
  3. 海外旅行傷害保険に加入すること。
  4. 出張前の厳しいプロポーザル作成も一因、無理は禁物。
- 6日間入院の後、サラシを巻いて業務を続行、なんとか契約期間内に業務を終了させた。  
お風呂に入る時、5cm以上の手術跡を見ては思い出す。

## 外貨コイン募金

植岡 龍太郎 会員

海外での業務や旅行から持ち帰ったコインをどうしてありますか、お宅では？日本では金融機関も相手にしないコイン。開発途上国では、貴重な貨幣。その小額コインのために、幼い子供たちが路上で働く。路上で物乞いをし、小銭を乞い求める。将来の人生のための学校にも行けず、病気治療のための病院にも行けない。この様子を、我々日本人の多くが見ているはず。終戦後の日本でも見られたこの姿。でも自分の子供にはさせたくない姿。我々が海外で働くのは、彼らの自助努力ではどうにもならない部分を改善し、彼らの将来を、我々が助けるため。我々の身のまわりに死蔵されている外貨のコインや小額紙幣を、それを必要としている人達のために、活用できないか？日本の1円や5円の小額コインも。これがささやかな私の願い。10月28・29日の横浜国際フェスタで募金活動をしてはとの提案に、JECK会員の多大なる賛同を得た。みんなでコイン一個ずつでも持ち寄って欲しい。集まる浄財を、志を一にするユニセフ（国連児童基金）を通して、それらを必要とする生活苦の児童の将来のために役立てたい。